

「第2次 Edogawa ごみダイエットプラン（江戸川区一般廃棄物処理基本計画） の中間改定（案）」の意見募集結果について

「第2次 Edogawa ごみダイエットプラン（江戸川区一般廃棄物処理基本計画）の中間改定（案）」に関する意見公募手続きは、令和7年7月15日から8月14日までの期間で行いました。その際、6名より計34件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見及び区の考え方は、以下の通りです。

1 意見募集手続きの概要

(1) 意見募集期間

令和7年7月15日（火曜日）から8月14日（木曜日）までの間

(2) 周知方法

ア 区公式ホームページに掲載

イ 令和7年7月15日号の「広報えどがわ」に掲載

※環境部清掃課窓口に関連用の印刷物を設置

(3) 意見の提出方法

ア 区公式ホームページ

イ 持込み又は郵送

(4) 提出先

環境部清掃課庶務係

2 意見募集の結果

	いただいた意見	区の考え方
1	素晴らしいと思います。	ありがとうございます。
2	同じアパートに外国人がいます。 不法投棄が目立つのでごみの捨て方分別をきちんと教えて頂きたいです。	計画では「外国人向け普及啓発の拡充」を重点施策としています。外国語版の「資源とごみの出し方基本ルール」などを活用し、普及啓発に引き続き取り組みます。
3	資源ごみとして、ペットボトル、缶、ビンは分別が進んでいると思います。 ただ、プラごみは素材の確認や、洗う手間などがあるせいか、燃やすごみとして出しているものが多いように感じます。	計画では「プラスチック資源循環の推進」を重点施策としており、引き続き容器包装プラスチックの正しい分別を周知します。また、令和7年10月からは製品プラスチックの拠点回収を開始しました。マテリアルリサイクルによる有効活用を進めていきます。
4	リチウム電池やバッテリーによる火災で、ごみ処理施設の稼働停止のニュースも報じられています。ごみ分別についてのさらなる周知と、リチウム電池やバッテリーの回収場所の設置箇所の増加が望まれます。	分別についてはホームページや「資源とごみの出し方基本ルール」等で周知を図ります。 また、リチウム電池やモバイルバッテリー等について、現在、集積所での回収を検討しています。
5	ごみの回収業務の軽減のために、回収スポットをもう少し集約したり、燃やすごみはカラスなどの被害	ご意見ありがとうございます。集積所は地域住民による管理をお願いしているものです。区ではカ

	を受けにくくするために、回収 BOX の設置などを検討してもらいたいと思います。	ラス除けネットの貸し出しを行っております。
6	資源ごみ(特に空缶)の持ち去りも問題かと思いません。	資源の持ち去りは課題として認識しており、職員によるパトロールを継続してまいります。
7	暑い時期の回収作業員の方の負担も軽減できるといいです。	ご意見ありがとうございます。令和6年度及び7年度は、委託事業者等への熱中症対策被服等の購入助成を行いました。
8	ごみが減っているとの事ですが、原因の分析が不十分ではないでしょうか。	ご意見ありがとうございます。ごみ量には様々な要因が関係し、その分析は難しいものですが、計画 P. 19 に記載のとおり、SDGs の普及等による社会生活の変化、経済動向、ごみ減量施策の推進はごみ量が減少した要因と捉えています。
9	プラスチックを含め、資源ごみを減らす目標・具体的な施策が不足していないでしょうか。	計画 P. 67 に記載の施策を推進するとともに、具体的な施策については引き続き研究してまいります。
10	「サーマルリサイクル」という言葉は国際的にはリサイクルと見なされないことから、最近では日本でも「サーマルリカバリー」という表現が一般的になりつつあります。熱回収であれば理解できますが、これをリサイクルに含めないよう、コラムの見直しを求めます。	ご意見を踏まえ、計画 P. 13、17、55、61、63 の記載を修正しました。
11	第五次循環型社会形成推進基本計画にあるように、循環経済への移行を強化する必要がありますが、排出された資源をどう回収するかの視点にとどまり、経済全体で天然資源の排出を減らす取り組みに乏しいのではないのでしょうか。区民の意識も大切ですが、事業者への梱包容器削減推進施策等、もっと強化してほしいです。ごみと同時に資源回収量も削減させていくことで、江戸川区の回収コストも削減できると考えます。	計画 P. 67 に記載されているマイバック運動推進店の拡大や、スーパー、コンビニなどの店舗の自主回収促進、廃棄物管理責任者講習会等を通して資源利用の削減に努めています。
12	区内の他の部署との連携を強化し、環境部が中心となって環境問題に対し、ダイナミックに対策を進めていただきたいです。 難しい問題だとは承知しておりますが、将来世代の子どもたちへの負担軽減のため、良い環境を残すためにぜひともよろしく願いいたします。私も区にお願いするばかりでなく、自分で何が出来るか考えていきたいです。	ご意見ありがとうございます。ごみ減量・リサイクル施策をより一層推進し、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現を目指します。

13	<p>中間改定による第 2 期の具体的施策・取り組み (P70) の” 具体的な” 表記がないので、わかりづらい。せめて第 1 期からの変更点だけでも示していただきたい。</p>	<p>第 2 期においては、第 1 期の取り組みから変更はありません。今後、B～D 評価の項目については、令和 13 年度までに実施できるよう努め、A 評価の施策は、継続と改善を加えながら、実効性のあるものとしていきます。ご意見を踏まえ廃止となった事業を明示しました。</p>
14	<p>「製品プラスチックの分別回収・リサイクルを進めていきます」(P34) だけでなく「製品プラスチックの分別回収とその有効活用を進めていきます」までを進めていただきたい。</p>	<p>令和 7 年 10 月より製品プラスチックの拠点回収が始まり、マテリアルリサイクルによる有効活用を進めていきます。 ご意見を踏まえ、記載を修正しました。</p>
15	<p>リユースカップ・リユース食器の利用推進も加えることを希望。イベント時にリユース食器利用を区が推進することを望みます。 江戸川区の「気候変動適応計画」の施策の中に「リユースカップ」事業が記載されているので、こちらの計画でも明記されることを望みます。</p>	<p>計画 P.68 にリユースカップ・リユース食器の活用の取り組みについて記載しています。</p>
16	<p>「タベくるんの活用を促進します」を加えられることを望みます。</p>	<p>令和 7 年 3 月 31 日で本事業は終了しております。フードドライブをはじめ食品ロスに関する啓発活動を強化してまいります。</p>
17	<p>「資源回収量」の定義がわかりづらいので整理していただきたい。 区が「資源回収」として回収した資源の合計で令和 6 年度 21,779t/年 (P.59) とするならば、図 2-17 (P11) の令和 13 年度に 30,856t/年まで減少させるという「資源回収量」が何を示すのかが不明。P9 の計算式により、集団回収や拠点回収等を加えた令和 6 年度のグラフから計算する 29,913t/年の値とも異なっています。</p>	<p>計画 P.59 の資源回収量は週 1 回収の分別資源回収量です。 P.9 の資源回収量は週 1 回の分別資源回収、集団回収、拠点回収、小型家電回収 (不燃・粗大) の合計の実数です。P.11 の資源回収量はその推計値であるため P.9 の数値と差が出ています。</p>
18	<p>区民一人 1 日あたりの収集ごみ量が削減したことで、今回の中間改定で目標値が新たに設定されたことは喜ばしいことですが、まだ達成できていない (B～D 評価) の事業についての第 2 期の計画を示していただきたい。例えば (1) リサイクルバンクの利用拡大、利用しやすい制度 (2) 事業系古紙リサイクル制度の支援 (3) 剪定枝などの資源化の検討：これは、「剪定枝や落ち葉の堆肥化などを推進します」と一歩進めることを希望。</p>	<p>今後、B～D 評価の項目については、令和 13 年度までに実施できるよう努め、A 評価の施策は、継続と改善を加えながら、実効性のあるものとしていきます。</p>

<p>19</p>	<p>コラムの掲載内容について、発行時から捉え方などが変更されている点は修正されることを希望します。</p> <p>(1) P17の「サーマルリサイクル」は、環境省は今使っていません。「熱回収・サーマルリカバリー」としているのに合わせることを望みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3(2021)小泉大臣(当時)の発言より「サーマルリサイクルという言葉を使わずに、サーマルリカバリーを正確に使うようにしている。」 ・R3(2021)中環審 プラ資源循環促進法で、熱回収は再資源には含まれない <p>(2) P26の図および説明文の変更を希望します。</p> <p>令和4年4月に施行されたプラ新法でRenewableが、3R+Renewableと言われるようになってからは、この図は不適と思えます。</p> <p>説明文ともに変更されることを希望しますが、図のみ修正して説明文が残る場合は、「再生利用が困難な場合に熱回収等により再生可能資源へ変えていくなど」</p> <p>→「再生可能資源を活用した素材のものに変えていく」</p> <p>または「再生可能な資源を活用していく」と変更されることを望みます。</p>	<p>ご意見を踏まえコラム及び一部記載を修正しました。</p>
<p>20</p>	<p>ごみ減量意識及び有料化について。</p> <p>p. 21において、ごみ減量意識の拡大により、資源回収が進んだとある。しかし、本当にその意識は十分に広がっているのだろうか。街を見渡せば、テイクアウトのプラ容器、ペットボトル、ごみ袋などリサイクルできるもののほか、タバコや使用済み割りばしといった一般ごみもポイ捨てされている。確かに、p. 55~56にある通り、数値には表れているかもしれないが、未だ不十分なのではないか。</p> <p>背景として、環境教育の不足があると考え。もちろん、p. 64にあるように、現代の園児及び学生は、環境教育冊子やカッティングカーを活用したり、SDGsなどの国際目標をも踏まえたりした教育がなされているかもしれない。しかし、社会人及び高齢者はこのような教育はあまりされておらず、問題意識に欠ける傾向にある。親世代が環境配慮行動をしていなければ、たとえ教育を受けたとしても、子も</p>	<p>ご意見ありがとうございます。更なるごみ減量意識向上のため、環境学習や地域イベント等、様々な施策に取り組んでまいります。</p>

	<p>それに倣ってしまう可能性がある。</p> <p>そこで、p. 24 にある大切な R などの重要事項だけでも、周知の徹底をしていただきたい。なお、自身としては、3R に Refuse (断る)、Repair (修理する) を加えた 5R の方が分かりやすいかと存じる。</p>	
21	<p>p. 50 にある家庭ごみの有料化が実現されれば、規制・強制的な面からのごみ減量意識を定着できるだろう。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p>
22	<p>外食・中食産業におけるリユース (マイ) 容器・マイカトラリー等について</p> <p>p. 50 でプラスチック削減プログラムに則りなどと定めているわりには、例えばパン屋の商品を包むプラ袋や、惣菜屋のプラ容器が常態化している。実際にパン屋に伺ってみたところ、マイ容器を持参すればそこに入れてくれるとのことだったが、その旨は一切掲示されていなかった。パン屋や惣菜屋に限らず、洋菓子、弁当屋など、どこに関しても共通して言えることである。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
23	<p>飲食店の中には、店内利用にも関わらず使い捨て容器・カトラリーを使用している店もある。そのような店は、早急にリユース容器・カトラリーを導入していただきたいが、万が一に備えて、自身の家から持参すべきである。</p> <p>ただ、そもそも自分で容器を持参するとの発想に至らない消費者が大半であろう。そのため、販売者側から行動を起こさなければいけないと強く感じている。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
24	<p>食料品の小売業について</p> <p>自身で様々な場所に伺ったが、多くの八百屋で水物袋利用が多く、またバラ売り・裸売り・量り売りが少ない。水物袋は、代わりに自分で新聞紙など持っていけばよいし、そもそも袋など要らない場合も多い。それに、袋詰めされた大容量のものを買った結果、いくつか腐ってしまった場合、食品ロスにもつながってしまう。このような点に気づいていない消費者が多く、また販売者側も意識していないのではないか。P. 66 の 1 番目、量り売りの項目が A 評価なのが信じがたい。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。</p>

25	江戸川区の農家直売所もプラ袋使用が非常に多く、裸売りは少ない。せっかくの地産地消で良い取り組みなのだから、プラ削減も同時並行で進めるべきと存じる。	ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。
26	ペットボトルについて p. 59 の表を見ると、ペットボトルの資源回収量が増加している。一見すると良い傾向だが、しかしそもそも「ペットボトルを購入しない」ことを目指すべきであり、この点で p. 50 のプラスチック削減プログラムと矛盾している。リサイクルすれば良いという問題ではない。	ご意見ありがとうございます。
27	マイボトル推進の際には、「中身に入れる飲料自体もペットボトル以外のものにする」点に留意しなければならない。そのため、給水スポットの周知も行っていく必要がある（ウォーターサーバーに限らず、公園の水飲み場も含む）。	ご意見ありがとうございます。
28	p. 62 の表にある通り、ペットボトルの処理原価減っていることから、区としてペットボトル利用増加に対する問題意識が薄れているのではないかと不安に感じている。もしそうならば、そのような意識はなくして、ペットボトル問題の根本原因を解決する方向にシフトしてほしい。	ご意見ありがとうございます。
29	不用品について 既に、ジモティーと連携して、不用品リユース回収の取り組みがあるのは存じている。しかし、単にリユースするだけでなく、それを発展途上国や日本（江戸川区限定でも可）の貧困家庭に寄付する仕組みを作ってはどうか。自身のように「寄附」に魅力を感じる区民は少なからずいると考える。	ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。
30	p. 75 に挙げられている遺品整理ごみや、区施設の忘れ物で保存期間が過ぎた物、イベントで余ったノベルティグッズの中にも、まだ使えるものはあると思う。それらも、規律・法律に違反するといった理由がないならば、寄付に回した方が良いのではないか。ノベルティに関しては、そもそも仕組み自体を廃止すべきと考える。そのものを貰い手が本当に必要か分からず、ただなんとなく得た気がするだけであり、遣り手も「何かあげないと相手が満足しない」という固定観念があるに過ぎない。それでは、資源の無駄遣いといっても過言ではない。	相続人等からごみとして排出されたものは、寄付に回すことはできません。 遺失物及びノベルティに関するご意見は参考とさせていただきます。

31	<p>その他質問・要望について</p> <p>まず、p. 56 の資源化率が 21/23 位と低い理由は何か、p. 58 の事業系ごみが 9 年度までは増加と予測している理由は何か、可能であれば提示していただきたい。</p>	<p>資源化率の低い理由としては、燃やすごみの中にリサイクル可能な資源が多く含まれていることが考えられます。事業系ごみは、東京二十三区清掃一部事務組合が都内総生産の増加に伴う増加とし算出しています。</p>
32	<p>フードドライブに関して、イベントだけでなく、もう少し常設のフードドライブを身近に増やしてはどうか。同時に、p. 72 の食料品マッチングアプリ、ないし第 67 回江戸川区廃棄物減量等推進審議会の議事録 p. 21 にあるアプリを活用した食品ロス削減も、ぜひ実現していただきたい。</p>	<p>フードドライブについて、令和 7 年 4 月より、区役所本庁舎での常設回収を開始しました。その他の拠点数増加については今後検討してまいります。</p> <p>アプリケーションを活用した食品ロス削減については、これまでマッチングアプリ、地域コミュニティアプリの活用を図ってまいりました。今後有効な取組みを研究していきます。</p>
33	<p>飲食店及び小売店において、電子レシートの導入を進め、紙資源の削減を行っていくべきではないか。無論、大企業の小売業でも導入しているところが多いとは言えないが、上記のフードロス関連のアプリのように（ないし統合して）レシートアプリを創るのも良いかと存じる。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。</p>
34	<p>自身は江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブの方法でコンポストを行っているが、その作った肥料を回収する仕組みを作ってほしいと感じている。その仕組みがあれば、たとえ自家栽培には関心がない、時間を割けない区民でも、堆肥化に挑戦するインセンティブになり得る。</p>	<p>ご意見ありがとうございます。今後の施策の参考とさせていただきます。</p>